

## 第 1 回定期学校訪問まとめ

佐伯教育事務所  
7/8現在 39校訪問

### 1 教育事務所の指導・支援の重点

- (重点目標 1) 「子どもが動く授業」への改善・充実
- (重点目標 2) 「組織的に動く学校」への改善・充実

### 2 把握した状況

#### (1) 「子どもが動く授業」への改善・充実について

(○…継続してほしい点、●…改善・徹底してほしい点)

把握した状況	
<b>【共通】 条件を付けて読み書きする指導の徹底</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元を貫く言語活動を位置付けた単元指導計画が作成されている。</li> <li>○作品・観察カード等の指導コメント、掲示が統一されている。</li> <li>●全ての学年に共通した単元を貫く言語活動の指導計画の作成が必要である。</li> <li>●子どもたちが新たに学んだ気付き・言葉等に注目させ、評価していきながら、学びを言語化、価値化していく。</li> </ul>
<b>【共通】 年間・単元指導計画に位置付けた過去問題の授業・評価への活用</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の考えを式と言葉で説明するペア活動やグループ活動が位置付けられている。</li> <li>○子どもたちが考えたいような課題を設定して、必然的にペア活動やグループ活動が取り入れられるようにしている。</li> </ul>
<b>【小学校】 授業と宿題をつないだ家庭学習の時間の意図的・計画的な拡充</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自主学習ノートの好事例を掲示して、子どもたちへモデル化を図っている。</li> <li>○「家庭学習の手引き」を各学校で作成して、家庭との連携を図っている。</li> <li>●学習の苦手な子どもへの「まとめ」「ふりかえり」の指導を進める。</li> <li>●子どもに任せるのではなく、学ばせる内容を振り返りの視点として与えた上で、振り返らせるようにする。</li> <li>●ドリル的な課題のみならず、授業での学びと家庭での学習をつなぐ宿題の出し方について、さらなる工夫が望まれる。</li> </ul>
<b>【小学校】 2ヶ月程度を単位として評価テスト等の確実な実施</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元末テストや中間テスト等各学校の創意工夫のもと位置づけられている。</li> <li>●単元末テストや中間テストの結果に基づいた個別指導を行う。</li> </ul>
<b>【中学校】 全ての教科等における言語活動の充実に向けた授業改善</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○書く活動、ペア活動、話し合い活動を1時間に1回は取り入れている。</li> <li>○一単位の授業時間や単元の中で、思考ツールを活用することを目標している指標が設定されている。</li> <li>●ペア活動やグループ活動が位置付けられているが、全体交流する際に、各グループごとの学んだ視点やキーワード等を位置付けていく。</li> <li>●非連続テキスト等を活用したり、キーワードを活用したりして書く活動の充実をはかる。</li> </ul>
<b>【中学校】 「活用する力」の育成に向けた総合的な学習の時間の改善</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各教科等の関連を図るための総合的な学習の時間の指導計画を小学校と協働して作成する。</li> <li>○各教科ごとの指導過程の共通理解。他教科の指導過程を共有することで互見授業の充実につなげる。</li> <li>●思考ツールをさらに各教科等で活用していく。思考ツールを活用してまとめられたものがねらいや付けたい力の育成にどのようにつながるのかを意識する。</li> </ul>

(2) 「組織的に動く学校」への改善・充実について

(○…継続してほしい点、●…改善・徹底してほしい点)

観点	把握した状況
1	喫緊の課題と重点目標の一致について
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各校の喫緊の課題を重点目標に掲げている。</li> <li>○重点目標の絞り込みを行い、喫緊の課題のみを掲げ、取組を進めている。</li> <li>●学校課題の軽重による重点目標の優先順位を考慮して順次に設定していく。</li> <li>●重点目標及び達成指標が一致しているにもかかわらず、重点的取組が複数及び重複する形で位置づけられている。</li> </ul>
2	児童生徒が変わる具体的な目標設定について
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童生徒が変わる具体的な取組像として取組指標に授業での「まとめ、振り返り指導」を記載している。</li> <li>●重点目標の「学力の定着や向上」に対する評価テストの等の達成指標が多い。また、重点目標達成のための重点的取組が、家庭学習の取組のみになっているところもある。目標協働達成の考え方に基づく取組に代えていけば、よりよいものになっていく。</li> <li>●取組指標が、アンケート結果の割合や評価テストでの達成人数の割合（特に、中学校）、教職員が取り組む互見授業回数になっている。児童生徒へ対する指導の取組の回数、頻度等を指標にしていく。</li> <li>●取組指標が、具体的な取組（授業等）と連動させ、目標達成できる取組になるよう質を高める。</li> </ul>
3	4点セットが全教職員に共有されるような会議での取り上げ方等の工夫について
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○運営委員会や職員会議、研修にて管理職や主要主任を通して周知・徹底している。</li> <li>○日報、週報、全体連絡会での徹底。連絡ボードや共有フォルダを活用した実践もある。小規模校では、複数体制による原案作成を行い、チェック体制を強化している。</li> <li>○教職員が集う職員室及び会議室等を活用して、重点目標4点セットや具体的な取組等を掲示物で示し、全職員へ共有を図っている。</li> <li>●会議時間の短縮は行われているが、全教職員の共有に向けた一層の工夫をしている。</li> </ul>
4	取組指標の状況確認と重点目標の検証改善について
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○取組指標の状況確認及び重点的取組への改善の視点はできている。ただし、検証サイクルは、学期毎である。</li> <li>○学校ごとに進行管理表をつくり、運営委員会で取組指標に対する達成状況を把握し、検証資料や改善に役立てている。</li> <li>●1ヵ月や2ヵ月毎の重点目標に対する取組指標の見直しが必要である。進行管理による短期PDCAの設定を行っていく。</li> <li>●重点目標4点セットの検証・改善が学期ごとに行われる学校評価のみで、進行管理に基づく資料等も参考にして行っていく。</li> <li>●自己目標は短期の検証可能な数値で整えられているが、重点目標4点セットでの検証に活かす取組を行っていく。</li> </ul>
5	学校の重点目標・分掌等目標・自己目標の連動により学校組織力向上等を図ることについて
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○運営委員会で4点セットの進行管理を行う際、情報交換を通して管理職が人事評価の資料にしている。</li> <li>○重点目標4点セットと学年目標等が連動しており、それに基づいて自己目標が整えられている。</li> <li>●学校組織の向上等をはかる主要主任の自己目標が、重点目標に係る目標設定と合致していない場合がある。</li> </ul>
6	それぞれの重点目標達成を担う主任等の役割と責任について
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○主任は、新たな課題についての取組や指標を部会で職員に検討させる。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教務主任と研究主任は、学校運営のミッションに責任を持つ。</li> <li>○重点目標や重点的取組に沿って主要主任を配置し、取組の徹底と評価を行う。</li> <li>●重点目標達成に対する主要主任の役割を明示していく。</li> </ul>
<b>7</b>	<b>意思決定の効率的・効果的な教職員への周知・徹底の工夫について</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小規模校の場合、職員会議はもたず、運営委員会で周知徹底をはかっている。</li> <li>○軽微な文書は、職員朝会や前面、背面黒板で工夫して周知している。</li> <li>○会議の時間を短時間（1時間程度）で済まして取り組んでいる。</li> <li>●職朝の回数は減し、朝から子どもに向き合う時間の確保に努めていく。</li> <li>●1ヵ月に対する運営委員会の開催回数を減していく。（現状は、月2回～4回）</li> <li>●運営委員会や職員会議の回数は少ないが、企画委員会等の別組織もつくり、会議による時間が増える傾向にある。</li> <li>●管理職が中心になり、会議運営を行っている。会議における主要主任の役割をもたせ、取り組ませていく。</li> </ul>
<b>8</b>	<b>主任制度及び手当の趣旨を伝え、主任手当拠出状況の確認について</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校長が手当主任に対して、直接、面談等で尋ね、把握をしている。</li> <li>○主任手当の拠出はなし。寄付行為についても認められない。</li> <li>●主任手当拠出を定期的に確認していく。</li> </ul>

### 3 まとめ

<p>(1) 「子どもが動く授業」への改善・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①必然的にペア活動やグループ活動が取り入れられるような課題設定を行う。</li> <li>②単元を貫く言語活動を位置付けた単元指導計画を作成し、思考ツール、非連続テキストを始め、学校図書館等を活用して、言語活動の一層の充実を図る。</li> <li>③資料として非連続テキストを用いた説明や検証の機会をふやす。</li> </ul> <p>(2) 「組織的に動く学校」への改善・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①重点目標、達成指標、重点的取組内容（重点的取組、取組指標）が全ての教職員に共有されるような工夫をしていく。</li> <li>②短期PDCAによる検証・改善は、取組指標の進捗状況確認のために進行管理を行いながら取組を進めていく。</li> <li>③主要主任が中心になり会議の時間を効率的に行い、授業改善による効果的な結果が生み出されるための時間確保を進めていく。</li> </ul>
---